



天文館はちみつの採蜜体験

日時：令和元年5月19日（日）10：30～12：30

場所：マルヤガーデンズ7階屋上庭園ソラニワ

講師：高野 裕志（養蜂家）



働き蜂の寿命は約1か月。その間に集められるはちみつは、わずかスプーン1杯分。いろいろな場所を飛び回ってコツコツ集めた蜜を、わたしたちはおすそ分けしてもらっています。また、集める花の蜜は時期によって変わります。では、どのように採蜜したかを紹介します♪



セイヨウミツバチが集めた蜜は、巣へ運ばれ、蜜がもれないように蓋をして保存されています。まずはその表面をきれいに削っていきます。



蓋を削ったものは、遠心分離機にかけていきます。勢いよく回すことで、たくさんの蜜が下に溜まります。



たまった蜜は、遠心分離機下の蛇口をあけて容器へ。とろ～りできたてのハチミツが！！たくさん採ることができました。



できたてのハチミツは
ほんのり桜の香りがして
とーっても美味しかったです♪
春先に甲突川に咲いた桜だそうです。



最後に…。みつばちからのいただきものは、ハチミツだけではないそうです。ふだん食べている野菜や果物は、ミツバチが受粉して初めて食べられる実になります。イチゴ、スイカ、マンゴー、キュウリ、ナス、ピーマン、トマト…。もしみつばちがいなくなったら、それを食べることはできなくなるかもしれません。農業の影響や、自然の減少で、みつばちが暮らしにくくなっていないか、もう一度考えてみようと思いました。